

集合	9:30	「橋の資料館」で待機室の鍵を預かり、室内でユニフォームに着替え、名札と腕章をつける。 ハーネス安全帯を装着し、ボランティア用ヘルメット、メットフォンを準備する。書記はメモ帳等を用意する。					
役割分担を決める		① 鍵及びハーネス	② 垂直梯子の上部	③ 垂直梯子の下部及び説明	④ 誘導及び書記	⑤ 説明	説明時のキーワード
事前説明と機械室案内(30分)	10:00 【13:30】	公社が行う、以下の事前説明に協力する 1.見学者に声かけし、視聴覚コーナーに集合して貰う。 2.見学者にツアーにの概要を説明し、視聴覚コーナーのDVDを鑑賞して貰う 3案内者の紹介 機械室の説明時は見学者の質問等に対応する。			事前説明後、可動式模型(1/75)、実物展示品等を用いて、概要を説明する	<ul style="list-style-type: none"> 交流モーターと直流発電機と励磁機 交流3300Vを制御しやすい直流470Vに変圧 模型で、ツアーの順序、橋の仕組みなどを説明 床版、先端金物、カウンターウェイト(150~160kg/個) 重要文化財指定 (H19.6) : パネルによる説明 	
施設案内(60分)	10:30 【14:00】	見学者に歩道の左側を歩くように指示し、見学者の前方、中央、後方に分かれて、自転車、歩行者に注意を喚起しながら、橋上を誘導する			橋台敷にて橋の全体及び記念碑の内容を説明	重要文化財指定 (H19.6)、永代橋・清洲橋と同時指定	
橋中央	10:40				当時の信号待ち位置にある紙を説明	歩道上及び河川上の信号、紙は歩行者、自転車の停止位置	
		跳開部中央まで誘導			シエアーロック等を説明	<ul style="list-style-type: none"> (双葉橋の)桁先端部をピンで固定、段差防止 ピンの抜き差しは運転室でモーターを操作 ピン部分は密閉され見えず、塞いだナットが見える ジョイント部のスキマ何故? (→温度収縮) 都電の架線支柱 当時は重要な交通機関(当初設計から) 実際の開通は戦後の昭和22年、昭和43年に廃止 月島から渋谷、新宿行きの2系統 	
		跳開部中央で見学者周辺の安全確保					
(バルコニー)	10:45	バルコニーの高欄の鍵を開ける			跳開部中央からバルコニーに誘導		
運転室	10:50	運転室、機械室の鍵を開ける	バルコニー内で質問等があれば対応		・操作盤及び各種機材の説明 ・橋の概要(橋名の由来、可動橋の選択経緯等)を説明	<ul style="list-style-type: none"> 「勝どき」の由来 日露戦争→旅順要塞陥落→勝関の渡し 隅田川の概要 岩淵水門から河口の築地大橋まで2.4km 道路橋27橋 勝関橋の必要性 渡し船⇒大正末~昭和初期(要望) 1200隻/日、1000t級を考慮⇒クリア21.5m必要 検討 ①トンネル、②高い橋、③跳開橋 工事 S8~S15 工事費約400万円(現140億円) 開発利益(土地の値上がり)を活用 開閉 当初5回/日⇒S20年代は3回 S15~S43(S45) 実働30年 戦前多くて10隻/日、昭和25年の829回/年がピーク S30は70回/年 稼働期間内の総開閉回数13,124回 	
		バルコニーの高欄の鍵を閉める					
	10:55	バルコニーに残る	墜落阻止器具の操作確認	運転室の見学終了後、先に機械室に降りる			
梯子	10:55	運転室の見学が終了した見学者を、足下及び背の低いドアへの注意を喚起して入り口に誘導する		梯子の下で待機する	説明者を補助する	※階段ステップが大きいので注意してください ・運転室、宿直室、見張り室、倉庫 ※朝は5:30に開閉 ・人員体制 8名(運転1、見張り1、路上2、機械室2、変電所2) ・3種類の電源を使用 開閉DC470v、排水P等AC210v 照明AC105v	
梯子	10:55	状況に合わせて、梯子上部の担当者を補助する	見学者を順次機械室に降ろすため、ハーネスを装着した見学者に墜落阻止器具のフックをハーネスに取り付け、注意して降りるように声をかける。器具のひもが見学者に絡まないようにする	墜落阻止器具の紐を徐々に引き寄せながら、降りてくる見学者に垂直梯子の段数を教え注意する。フックを外し、注意して階段を降りるよう声をかける 「垂直梯子の上部」担当に声を掛けゆくり戻す	中段通路に待機し見学者が安全に機械室底面の説明場所に行くよう声をかけるとともに説明者を補助する	早く降りてきた見学者が退屈しないように、都政や橋に関する最近の話題を質問等に対応する	
	~11:05		全員降りるまで昇降作業を繰り返す		説明の準備をする		
機械室	11:05	原則、バルコニー内で待機する 案内者が少ない場合は臨機応変に対応する	状況に合わせて、機械室内での案内誘導、説明者の補助などを行う	質問への対応等説明担当者の補助をする。	質疑概要を書き取る	機械室底面に用意してある説明用ボードや資料を使用して、かちどき橋のシステムや位置などを見学者に説明し、質問を受ける	
	11:10		写真撮影などの自由時間を十分にとる。(質問対応)				
機械室	11:15	状況に合わせて、梯子上部の担当者を補助する	機械室に降りた場合は、様子を見て早めに梯子上部に移動する	時間を見て梯子の下部で待機する	質疑概要を書き取る	見学者を上流階段に誘導し、ラックとピニオン群やトラニオン軸が良く見える場所で見学させる。 橋脚上で川面と桁下部を説明する	
機械室	11:20		中段通路で待機し、降りてきた見学者に直流モーター、ブレーキ類、クラッチや手動操作装置などを説明する	時間があれば再度説明用パネルを使い説明する 最後に下流側のトラニオン軸に案内する	<ul style="list-style-type: none"> ラック(巨大な歯車の歯板) 直径約15mの一部、周長9m、歯板数80個 ピニオン(小歯車) : 直径約60cm、歯数16個 トラニオン軸 : 直径65cm・軸長250cm 宿直室、男子用トイレ、ライブロード沓 		
梯子	11:25	墜落阻止器具の紐が絡まないように注意しながら梯子を登らせる。(見学者に機械室の様子を聞くなど声をかける)	墜落阻止器具のフックを下に降ろし見学者のハーネスに取り付け、上部担当と協力して梯子を登らせる	見学者の最後尾で、指示、誘導する	見学者より早く梯子を上がり、バルコニーで待機する	※落ちついてゆっくり上がってください	
バルコニー	11:15	機械室ドアから出てきた見学者をバルコニーに誘導する	ドア付近まで見学者を誘導して、頭上に注意するよう声を掛けフックを外す	照明が消えていることを確認して、最後に梯子を上る	説明パネル横及び階段のスイッチを切る	バルコニーで見学者を待ち全員揃ったところで、最後の質問を受け、記念写真を受付後、ツアーの終了を告げる	
(10分)	11:15	全員が出たことを確認し、バルコニーの鍵を閉める	行きと同様に見学者の前方、中央、後方に分かれて、自転車、歩行者、に注意を喚起しながら、見学者を誘導する		先頭に立って見学者を案内する		
資料館	11:20	橋の資料館へ戻る					
	11:20	橋上の自転車、歩行者に注意を喚起しながら橋の資料館へ戻る (ミニツアーは90分以内に終わらせること)					
	11:30 【15:30】	見学者の解散(公社担当の役割) 見学者はメットフォン、ハーネスを外し公社担当に渡す。公社担当者は回収した用具を消毒し、収納する。その後「アンケート用紙」「勝関橋ミニツアー参加記念品」を渡し、解散する。なお、解散後は橋の資料館を自由に見学してもらおう					

※本要領はガイドブックに沿った標準的な案内をまとめたものです。各班の構成や経験、見学者の人数、年齢等に合わせて、適宜工夫のうえ案内して下さい。